

[4] アウトドアを活かした地域活性



竹山 史朗

株式会社モンベル常務取締役 広報部本部長

モンベルは皆さんご存じだと思いますが、もともとはものづくり、アウトドア用品をつくっているメーカーです。販売店を全国に展開、北海道から沖縄まで百二十数店舗あります。アウトドアのイベントや、最近「岳人」という山の雑誌、いわゆるメディア関係の仕事も行っていきます。それ以外にも、地域のお悩み相談を受けるコンサルティング的な仕事や、地域の公共施設を管理させていただく指定管理の仕事など、最近地域に根ざした仕事が増えています。

● モンベル 7つのミッション

1. 自然環境保全意識の向上
2. 野外活動を通じて子供たちの生きる力を育む
3. 健康寿命の増進
4. 自然災害への対応力
5. エコツーリズムを通じた地域経済活性化
6. 一次産業（農林水産業）への支援
7. 高齢者・障害者のバリアフリー実現

そういった仕事をしていくにあたり、我々は、こんなことで社会への貢献につながるのではないかとこのことを7つのミッション（右図）にまとめています。我々の創業者の辰野が考えてまとめた内容ですが、そのきっかけは三重県さんから包括連携協定のお話が数年前にあり、その

とき、何ができるだろうと考えたところから始まりました。最初は5つでしたが、今は7つです。7という数字もきりがいいので、7つのミッションという切り口でいろいろなことをやっています。

自然環境保全への意識向上もあります。自然の中で遊んでもらうことで自然に対する気づき、自然を慈しむ気持ちなどを向上させます。特に子どもたちの生きる力を、野外活動を通じて育んでいこうと考えています。

それから、高齢化社会になってきているので、健康寿命を増進させなければいけない。アウトドアの活動はスポーツといっても競争ではないので、自分のペースで一生続けられる、健康に寄与するものです。

次に、災害対応力の向上です。これは後でお話しますが、いかに野外活動が災害対応力につながるかということです。

そして、エコツーリズムです。そういったものを通じて地方を元気にしていく活動です。

それから、第一次産業への支援です。アウトドアで培ってきた、さまざまなノウハウを使

った第一次産業用の用品を開発しています。

最後に、バリアフリーです。どんな人にも自然を楽しんでもらいたい。高齢者や障害を持った方にも自然を楽しんでもらいたい。そういった思いで7つのミッションを定め、ビジネスや社会活動を通じてやっています。

モンベルクラブというものがあります。全国94万人の会員さんを持つ、恐らく日本で最大のアウトドアスポーツ愛好者の集まりだと思います。毎年、会費を1,500円払っていただき、この会費の一部、一人頭50円を使ってモンベルクラブファンドをつくり、いろいろな社会活動をやるときの原資として、そこから拠出して行うことがルールとしてあります。また、いろいろな地域とお付き合いする中で、この人たちに対し、その地域の情報をお伝えしていくことをやっています。

一つの例としては、モンベル・アウトドア・チャレンジがあります。我々がいろいろな地域にモンベルクラブのお客さまを連れていきます。登山やサイクリング、サップ、カヤックなどなどいろいろな活動をしています。親子で一緒に楽しむイベントもやっています。最近、子どもたちが野外で体を動かし、いろいろなことを学ぶ機会が非常に少なくなってきました。親子で楽しむことにより、そういったことを体験してほしい。このぐらいのお子さんの親の年代も案外、野外活動の経験が少ないです。川で遊ぶなどか、いろいろなことを言われていた時代に子ども時代を過ごした親御さんが多いので、親子でやってもらおうというイベントもやっています。

それから、子どもたちだけのモンベル・キッズ・チャレンジという取り組みです。北上川を子どもたちとサポートのガイドが2人ついて川下りするものです。数日間キャンプをしながら川を下っていきます。最初はなかなかうまくいきません。日が高くなると河口から風が吹いてきて、漕いでも漕いでも進みません。数日経つとそういったことを学び、明日は夜明け前に出発しよう。そういったことを子どもたちは自分たちで決めてやっていきます。ですから、このような体験を積んでいってもらい、いろいろな状況に対応できる生き抜く力を身につけてほしいということで、行っています。

地域でのイベントとして、もう一つSEATO SUMMITがあります(次頁図)。海から山というか、山から海までの水の循環というか、そういった自然の循環をもう少し意識したほうがいいよねということで始めたイベントです。土日に行います。1日目の土曜日には必ず環境シンポジウムをやります。環境や自然に造詣の深い方、例えば気仙沼の畠山さん、C.W.ニコルさんなどに来てもらい、いろいろな話をしてもらいます。それから、地元の方と一緒にパネルディスカッションをし、次の日は自分の力で、海でカヤックをこぎ、自転車で里を走って歩いて山に登ります。今年は全国で13大会やりました。

朝にカヤックをして、そのまま自転車で走り、最後に歩いてゴールする。これは競争ではないので、楽しくやりましょうというのがコンセプトです。できるだけ敷居を低くして、い



ろいろな人に参加してもらうのもコンセプトの一つです。ここに映っている（上図左端）のは車椅子の人です。カヤックだけできる人はカヤックだけでもOKですよという形で参加してもらっています。真ん中に映っているのは元社員で、障害者カヌー協会の会長をやっています。今はもうパラリンピックの準備で非常に忙しくしていますが、そういった人たちにも積極的に参加してもらっています。

ハンドサイクルというか、車椅子にくっつける自転車のようなものがあります。本格的にこのようなハンドサイクルで参加される障害者の方もいらっしゃいます。

活動が続けていく中で、1年に1回だけのイベントではなく、年中楽しむ仕組みをつくりたいということで、ジャパンエコトラックをつくりました。これは、例えばカヤックをこぐ、自転車をこぐ、歩く、そういった自分たちの手足を使った手段で旅をしようという取り組みです。ルートをつくり、そのルート上の整備や、ルートができましたよというプロモーション、それからそのルートを整備していく継続性などを地域と一緒に進めていく取り組みです。

お手元にジャパンエコトラックのマップのサンプルがあると思いますが、こういった形で、地域によっては多言語化して、海外にも出していっています。

それから、インフラの整備です。バイクラックの整備や、ビジターセンターを整備する。あるいは道標を整備する。こういったところまで進めている地域もあります。

先ほども少し話をしましたが、我々が付き合っている地域は、自然は豊かですが、その生かし方をどうすればいいかわからない地域が多いです。そこをうまく生かし、「自然の好きな方に来ていただきたい。どうすればいいですか」という話が多くの舞い込むようになりました。



ここは(上図)キャンプ場です。福岡県に新しくダムができました。ダムの残土を使った広い土地がある。その土地を使って何をしたいか分からないのでぜひ考えてほしいということで、キャンプ場を提案しました。キャンプ場の設計をして、今年の春から稼働したという例です。

今地域で問題になっているのは廃校です。人口が減り、子どもも減り、学校が統廃合され、結構いい施設ですが、学校としてはもう使わない。その廃校を利用して何かやってほしいという話があるようになりました。

高知県の本山町の例をお話しします。本山町は四国のど真ん中にある、どこからも一番遠いような場所です。吉野川の最上流部です。そこに一つ、中学校の廃校ができました。そこを使い、アウトドアの拠点設備をつくってほしいという話があり、手がけたものです。体育館や校舎などが残っており、校舎は団体宿泊棟にして、子どもたちが団体で泊まって何かするときに利用します。敷地内にコテージも作り、こちらは家族で利用する。そういった施設にしてあります。あとはお風呂、レストラン、アウトドアショップ、これは実はモンベルのお店が入っています。泊まって、お風呂に入って食べるだけでなく、周りは川で囲まれている場所で、ここを利用して、例えばラフティングですね。ゴムボートで川を下る。あるいはカヌー、サップ。そういったものを体験できる施設になっています。周りの自然を利用してトレッキング、サイクリングも展開しています。ここに行けば泊まれて、いろいろなことを体験できます。今年7月にオープンし、夏休みの間は予約でいっぱい、活気を呈していました。

それ以外に意外なこともやっています。鳥取県に大山(だいせん)という山があります。丹沢には大山(おおやま)がありますが、同じ「大山」と書きます。

そこに昔から大山寺というお寺があり、その参道が非常にさびれて困っていました。1,300年祭も来るのにどうしよう。何か活性化させる策を考えてほしいということで、我々は山やお寺を利用して何とかしよう。空き店舗が増えてどうしようもないので、参道の一角に何か中核になる施設をつくりましょうということでやりました。国立公園のエリアなので、環境省さんとも相談しながら進めました。最終的には大山参道市場という、地元の産品を集めた市場と、カフェ「参道」という形ができました。大山小麦という、大山の周辺でできる、ブランド化された小麦があります。それを利用したパンづくりも行っています。標高800mぐらいあるところでパンをつくと、結構おいしいパンができることが分かり、今、

災害支援



これも自分たちで運営しています。うちの社員がパンを焼いたり、お土産を売っています。

これに関連して、この近くにモンベルの店がありますが、さらに近くに環境省がやっている下山キャンプ場があります。非常にいいキャンプ場ですが、今のいろいろなニーズには応えられていない、昔ながらの自然だけが豊かなキャンプ場です。私などはそういったところが大好きですが、もう少し便利なキャンプ場にしたいということで、今、そのリニューアルも手がけています。

もう一つだけお話しします。越前大野に道の駅ができます。高速道路ができ、そのインターチェンジの出口にできます。そこのすぐ裏には荒島岳という日本百名山の山があります。近くに九頭竜川もあり、自然の豊かなところなので、登山の拠点としても使え、何かアウトドアと関連づけた道の駅をつくれなにかということで、クライミングやカヌー、サイクリングができる拠点施設としての道の駅を今計画しています。

あとは災害支援です（上図）。アウトドア義援隊ということで、3.11のときの災害支援です。災害復興住宅、阿蘇の地震のときの支援など、いろいろなことをやってきました。ものづくりにも結び付け、幼稚園児が訓練のときに身につけているライフジャケットも作りました。災害に役立つグッズを今、いろいろと作っています。第一次産業に関連した道具、ウェアなどもいま盛んにつくっています。

最後は、「フレンドマーケット」です（次頁図）。地域の第一次産業でできたもの、農産物、木工品をモンベルクラブの会員に販売するという、オンライン上のプラットフォームを作っています。

